

2021年06月14日

## R&amp;I格付アウトLOOK——地域銀行

## 1. 決算状況と事業環境

2020年度の地域銀行の決算は、多くの銀行において収益力の主要な指標であるコア業務純益が前年度比で増加した。コロナでの資金需要の高まりに対応して貸し出しを大きく伸ばしたことが資金利益に貢献したほか、経費の削減が進んだ。OHR（経費率）改善など一定要件を満たすと日本銀行の当座預金に付利される特別当座預金制度の導入が動機づけとなり、経費削減は今後一段と進むとみている。

コア業務純益が改善する一方、最終損益は減益となった銀行が多い。コロナ禍の厳しい経済環境の下で与信関係費用が増加した。潤沢な流動性供給が奏功し倒産件数は低位に推移しているが、顧客の財務収支の悪化によって債務者区分の引き下げが増加したり、一部の銀行では先行きの厳しさを織り込んだ予防的な引き当てを実施したりしたことが与信関係費用を押し上げた。

マイナス金利政策など低金利環境は続きそうだが、貸出金利の低下余地は小さくなっており、貸し出しボリュームの増加である程度打ち返せるようになってきた。経費構造の見直しも進み、顧客部門の損益は改善傾向にある。貸出資産の質には注意をする必要があり、新型コロナウイルスの収束状況を見守っていく。

## 2. 格付上の注目点

格付対比で改善の余地がある収益力改善の動向に注目している。収益力は持ち直しつつあるが、この流れを持続するためには粗利益の増加が欠かせない。特に継続性・安定性の高い顧客部門の収益を増やしていくことが重要だ。貸出金利息収入の大幅な増加が見込みづらくなか、各行は非金利収益の強化に注力している。法人取引では成果が出てきている半面、個人の預かり資産取引は課題が残る先も多い。グループ外の証券会社との連携強化など打ち手を広げており、その成果に注目していく。

有価証券運用への依存度が高い銀行はリスク管理の巧拙が問われそうだ。金融市場の不透明感は高まっており、特に海外ではインフレの進行による金利上昇リスクにも目を配る必要がある。調整局面で機動的な対応ができるか実効性を確認する。預金の増加に加え、過去の高利回りの日本国債の償還が進むため、価格変動の大きい有価証券への投資を増やして運用益を確保しようとする地域銀行も見受けられる。リスク耐久力にも響くため、リスク選好度を強める動きには注意している。

資産の質については、大口先の信用状態や新型コロナウイルスの影響を強く受けている業種への集中リスクの状況などを点検していく。

## 3. 個別企業の動向と信用力の方向性

資産の質の健全性を保ち、経費構造の見直しと顧客部門収益のテコ入れにより収益力の改善につながれば格付にプラスに働く。4月に佐賀銀行（証券コード：8395、発行体格付=A-）をBBB+から格上げしたほか、収益力回復の道筋がみえてきたと判断して滋賀銀行（8366、A+）の方向性をネガティブから安定的に戻した。格付の方向性をネガティブとしている中国銀行（8382、A+）も収益力の見通しが焦点だ。

銀行法等改正の流れを受け、業務の幅を広げて成長を目指す動きが積極化している。広島銀行（A+）は地域銀行としてはじめて1行単独での持株会社を設立した。同行を皮切りに北國銀行（8363、A+）、十六銀行（8356）なども持株会社を設立する予定だ。これら以外でも連結収益の拡充に向けグループ会社の位置づけを見直す銀行が増えている。中長期的には信用力にプラスになる可能性があり、収益源の多様化に向けた取り組みを見守っていく。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っており、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

みちのく銀行（8350、BBB+）は青森銀行（8342）と経営統合に関して基本合意した。統合により青森県で圧倒的な市場地位を確立でき、信用力にはプラスに寄与する。経営統合に向けた進捗、みちのく銀行が抱える公的資金優先株の取り扱いなどを確認し、格付に反映していく。

チーフアナリスト 中島 快  
シニアアナリスト 若井 恭兵

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧下さい。